

# 平成20年度 活動報告

## 1. 教育実践総合センターの概要

### (1) センター設立の趣旨

21世紀を迎え、国際化・情報化の進展、科学技術の発達、少子化・高齢化の進行、環境問題等、現代社会は複雑化・深刻化してきており、未来を生きる子どもたちの教育についても混迷を深めてきている。学校教育も大改革の時代を迎え、新しい教育課程の創造、総合的学習、学力問題、特別支援教育など新しい課題に直面している。子どもを取り巻く状況もいじめや不登校の益々の深刻化、低学年での学級崩壊や教師に対する暴力、アスペーション・クライシス等々の早急に対応しなければならない課題を突きつけてきている。

本学教育実践総合センターは、こうした学校教育を取り巻く諸問題に現実的に対処すべく、旧教育学センターと旧教科教育センター（学内措置による）とを発展的に改組して、平成9年度に設立された。

### (2) センターの目的

センターは、“教育実践及び教育臨床にかかわる理論的、実践的並びに実際的研究を行うとともに、学校教育諸問題に適切に対処することのできる教員並びに教育実践の指導者の養成に寄与すること（愛知教育大学教育実践総合センター規程第2条）”を目的としている。

### (3) センターの構成

このセンターは2部門3分野（教育実践基礎研究部門—教科教育研究分野、教育臨床研究部門—発達支援基礎研究分野・教育臨床分野）からなり、教授1、客員准教授2（愛知県教育委員会並びに名古屋市教育委員会から各1）の教員組織と事務職員1、事務補佐員1の事務組織および学内外の研究員および研究協力員とによって運営されている。

平成20年度の各分野の研究員、研究協力員の実数は下表の通りである。

| 部 門                | 分 野        | 研 究 員 |       |     | 研究協力員 |
|--------------------|------------|-------|-------|-----|-------|
|                    |            | 学内    | 附属学校園 | 合計  |       |
| 教育実践基礎<br>研 究 部 門  | 教科教育研究分野   | 5 2   | 2     | 5 4 | 3 1   |
| 教 育 臨 床<br>研 究 部 門 | 発達支援基礎研究分野 | 1 3   | 0     | 1 3 | 1 7   |
|                    | 教育臨床分野     | 6     | 0     | 6   | 4 5   |

## 2. 研究活動

センターでは先に述べた、1名の専任教員と2名の客員准教授及び多数の研究員・研究協力員が教育研究に従事している。今年度は、主に次のような活動を行った。

### ◎教育実践基礎研究部門

#### <教科教育研究分野>

##### (1) 運営

本年度も専任教員が転出し不補充であるため、2008年4月23日にメンバーが集まり、メンバーが下記のように任務を分担してこの分野を運営していくことにした。なお、代表は野田敦敬とした。

- ①人材データベース …………… 宮川秀俊
- ②スコープ編集・発行 …………… 船尾日出志
- ③大学一附属学校連携 …………… 野田敦敬
- ④学内外を集めた研究会 …… 森 勇示
- ⑤センター紀要の編集 …………… 山田篤史・森 勇示
- ⑥教科書収集・整理 …………… 山田 綾

##### (2) 人材データベース

平成21年度版もまた学校側から見たときに記載内容がわかりやすいように工夫して発行する。

##### (3) スコープ編集・発行

今年度は「思い出に残る先生」を特集テーマとした。

##### (4) 大学一附属学校連携

愛知教育大学・附属学校共同研究会の参加者数は、大学教員の延べ数は130人、実数108人、附属学校教員の延べ数は271人、実数196人、両者合わせると延べ401人、実数では304人である。

代表者会は2008年6月23日に開催された。また全体研究会は、2008年8月6日に、大学の安全教育シンポジウムの後の午後3時から開催された。なお、各分科会毎の研究会は随時開催された。

報告書は、平成19年度から電子媒体で発行している。

(5) 講演会

テーマ「フィンランドの教育（社会、家庭教育、学校教育）について」

講師 Oyama, Elina Marketta 先生（フィンランドご出身）

日時 2008年6月13日（金）午後3：00～5：00

場所 教育実践総合センター3階 教科教育共同研究室

参加者 川上昭吾, 森 勇示, 宮川秀俊, 山田篤史, 後藤ひとみ, 遠西昭壽, 吉田 淳, 吉田 正, 小宮山潔子（国士館大）, 橋本健夫（長崎大）, 劉 卿美（長崎大）, 横山信幸（金城大）, 山中信子（愛知県総合教育センター）, 坂田貴仙（愛知県総合教育センター）, 本学大学院生7名

内容 フィンランドの学校事情（教科、教育課程）家庭事情についてマルケッタ先生よりお話を聞き、適宜、質問と答をいただいた。

(6) センター紀要

教育実践総合センター紀要（第12号）を編集発行した。

(7) 教科書収集整理

本年度も引き続き教科書の収集と整理を行った。

◎教育臨床研究部門

<発達支援基礎研究分野>

分野研究会

第1回研究会／5月27日（火） 17：00～

1）平成19年度活動報告および会計報告

2）平成20年度活動報告

3）教員・学生・NPO（子育て子育てNPO スコップ、便所くんプロジェクト）の顔合わせ会

第2回研究会／11月29日（土） 15：00～（子育て・子育て研究会との共催）

テーマ：「とよた子どもの権利相談室」の活動内容ならびに「豊田市子ども条例」の紹介

会場：とよた子どもの権利相談室（豊田市）

講師：大村 恵氏（愛知教育大学）

「SOBA」による学習会（毎週火曜日：大学生によるピアサポートの学習、子どもとの交流イベントの企画・準備、Eメールなどへの返信案作成など）

しえんサロン（発達支援学習会）

第1回／6月24日（火） 17：00～

「あなたも『みなみ』支援隊」（講師：高浜市立南中学校 島田 強氏）

<教育臨床分野>

教師等との共同研究会

愛知学校教育相談事例研究会（毎月第2金曜夜間、夏期・冬期合宿各1）

愛知教育大学心理療法研究会（毎月第4金曜夜間）

安城市子ども理解のための事例研究会（毎月第1水曜夜間）

附属学校園との共同研究会（いじめ・不登校・学級崩壊分科会）

第1回：6月25日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕自分自身と向き合おうとする40代女性との面接

第2回：7月23日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕子育ての悩みから不安を訴える母親C

第3回：9月24日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕「食べる、すぐにイラ立って」を主訴とされた16歳女子との面接過程

第4回：10月22日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕アスペルガーの疑いと言われる小2男児とのプレイセラピー過程

第5回：11月26日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕ADHDと診断された10歳男児の遊戯療法過程

第6回：12月19日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕相談室登校をしている中2男子のプレイセラピー

第7回：1月21日（水） PM2：00～4：30 教育実践総合センター3F（演習室）

〔事例発表〕他者との関わりや、集団場面での適応に問題のある小4男児のプレイセラピー

### 3. センター教員の学部・大学院教育への参与状況

| 教官名   | 担当教科            | 必・選 | 単位 | 学年 | 人数 | 備考        |
|-------|-----------------|-----|----|----|----|-----------|
| 生島 博之 | こころとからだ<br>セミナー | 選   | 2  | 3  | 8  | 学部（2人で分担） |
| 生島 博之 | 特別支援教育概論        | 選   | 2  | 4  | 20 | 学部（8人で分担） |
| 生島 博之 | 臨床心理実習Ⅰ         | 必   | 1  | M  | 23 | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 臨床心理実習Ⅱ         | 必   | 1  | M  | 23 | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 臨床心理面接Ⅰ<br>（昼）  | 必   | 2  | M  | 7  | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 臨床心理面接Ⅰ<br>（夜）  | 必   | 2  | M  | 3  | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 犯罪心理学特論         | 選   | 2  | M  | 21 | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 修論指導<br>（特別研究Ⅰ） | 必   | 2  | M1 | 3  | 学校教育臨床専攻  |
| 生島 博之 | 修論指導<br>（特別研究Ⅱ） | 必   | 2  | M2 | 5  | 学校教育臨床専攻  |

なお、学校教育臨床専攻では、当センター心理教育相談室での臨床実践（教員が院生とペアで相談ケースを担当すること）を、授業（講義、演習、実習）と同程度に実施した。そして、これらのケースに関する指導院生などへのグループスーパービジョンを通年で30回（45時間）実施した。

| 教官名  | 担当教科                          | 必・選 | 単位 | 学年 | 人数  | 備考     |
|------|-------------------------------|-----|----|----|-----|--------|
| 川北 稔 | 地域づくりと生涯<br>学習計画              | 選   | 2  | 3  | 159 | 学部教育科目 |
| 川北 稔 | 平和と人権入門                       | 選   | 2  | 1  | 5   | 学部教育科目 |
| 川北 稔 | 問題行動の理解と<br>生徒指導・相談活<br>動の進め方 | 必   | 2  | M  | 19  | 教職実践専攻 |
| 川北 稔 | 問題行動対応論                       | 必   | 2  | M  | 7   | 教職実践専攻 |
| 川北 稔 | 問題行動解決支援<br>演習                | 選   | 2  | M  | 1   | 教職実践専攻 |
| 川北 稔 | 課題実践計画の研究                     | 必   | 2  | M  | 4   | 教職実践専攻 |

### 4. 教育事業

センターでは、本年度に次の教育事業を行った。

#### ①教師等のための公開講座の実施

『学校教育臨床—事例研究A—』

（20.6.21.～21.3.7. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者12名）

『箱庭づくり体験』

（20.6.22. 5時間、主任講師：生島博之、参加者29名）

『学校教育臨床—事例研究B—』

(20.6.28.~21.3.21. 全9回27時間, 主任講師:生島博之, 参加者6名)

『教育臨床セミナー』

(20.8.28.~20.8.29. 2日集中11時間, 主任講師:生島博之, 参加者25名)

②附属岡崎中学校及び附属名古屋中学校でのスクールカウンセリングの実施

(19.12.3.~20.11.11. 全26回133時間)

③教育臨床分野による教育事業

実践力の優れた臨床心理士を養成するために、学校教育臨床専攻の臨床心理士教員および客員教員との合同で、臨床心理学コースの大学院生の臨床実習として、ケースカンファレンスを実施してきている。さらに、修了生へのアフターケアとして愛知教育大学心理療法研究会を行い、グループ・スーパービジョンもおこなっている。

一方、学部生に対しては、将来に教員をめざすもの等を対象として、不登校児童・生徒へのボランティア(訪問支援・適応指導教室など)に関心があり、学外活動支援実習室に登録した学生に対して、学習会を開いて研修を行い、時期をみて実習希望先に派遣している。(なお、下記の表は平成20年度に参加した学生の数を示している)

|             | 修了生 | M2 | M1 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 | 合計 |
|-------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| ケースカンファレンス① | 1   | 23 | 10 |    |    |    |    | 34 |
| ケースカンファレンス② |     | 5  | 10 |    |    |    |    | 15 |
| 愛教大心理療法研究会  | 15  |    |    |    |    |    |    | 15 |
| 学外活動支援実習室   |     | 3  |    | 4  | 5  |    | 2  | 14 |

- 1) ケースカンファレンス①(センター協力員・院生スタッフ対象, 34名) 15回 教員4名
- 2) ケースカンファレンス②(いじめ・不登校・学級崩壊プロジェクトを兼ねる) 7回 教員3名 院生15名  
内地留学生4名 附属中教員2名
- 3) 愛知教育大学心理療法研究会 毎月1回 臨床心理士(愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻  
臨床心理学コース修了生) 15名
- 4) 学外活動支援実習室学習会 随時 将来に教員をめざす学生ほか14名
- 5) 愛知学校教育相談事例研究会 毎月1回(含合宿研修=夏期・冬期) 小中高教員等30名

5. 相談事業

本年度に、教育実践総合センターでは、以下の相談活動を行った。

1) 電子メール, FAXによるいじめ相談

学生を主体とするボランティアグループ「SOBA」(Symposium of Bullying in Aichi)は、子どものエンパワメントについて学習しながら、グループ自体がピアサポートの場となることをめざして、ロールプレイなどのプログラムを体験している。また学習の成果を、子どもとの交流イベントの企画・実行や、電子メール・FAXを利用して寄せられる「いじめ」体験への返信活動などに生かしている。

| 事項                           | 対象 | 件数 | 時間 | 担当者等           |
|------------------------------|----|----|----|----------------|
| 電子メール, FAXによる<br>いじめ相談“SOBA” | 一般 | 3  | 随時 | 川北 稔, SOBAメンバー |

2) 面接教育相談

センター教育臨床分野が中心となり、愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室を運営してきた。ここでは、いじめ・不登校をはじめとする面接教育相談に応じてきており、毎週1回1時間の親子併行面接を基本として、カウンセリング、箱庭療法、プレーセラピー、等の技法を用いたインテンシブな心理療法を行ってきた。

同時に、この面接教育相談は学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生の臨床実習の場にもなっており、臨床心理士資格をもつ教員(センター教員並びに学校教育臨床専攻臨床心理学コース教員)がグループスーパービジョンをしながら、大学院生にも担当させてきた。また、ほぼ月3回の割合でケースカンファレンスを持ち、大学院生の臨床教育の一環としてケース検討を行った。

本年度（平成19年12月1日～20年11月30日）の面接教育相談の概要は以下の通りである。

| 事 項                     | 対 象 | 人 数     | 時 間        | 担 当 者 等         |
|-------------------------|-----|---------|------------|-----------------|
| ①外来面接相談                 | 一般  | 201     | 1496       | 生島博之，他学内臨床心理士教員 |
| ②対教師等相談                 | 教師等 | 94      | 101        |                 |
| 内訳：                     |     |         |            |                 |
| ①外来面接相談                 |     |         |            |                 |
| 受付ケース数                  | 195 | (201人)  | 総面接回数      | 1496回           |
| 前年度からの引継ぎ               | 134 | (106人)  | 総面接時間      | 1496時間          |
| 新規受付                    | 61  | (95人)   | 面接回数範囲     | 1～46回           |
| ＜問 題 別＞                 |     |         |            |                 |
| 不登校・不登校傾向               | 7   | 1       | 家庭内暴力      | 0               |
| 対人関係の問題                 | 2   | 1       | いじめられ      | 4               |
| 場面緘黙                    | 1   | 3       | 育児不安       | 3               |
| 遺尿・吃音・チック               | 5   |         | 強迫傾向       | 1               |
| 発達障害                    | 3   | 3       | 虐待         | 3               |
| 感情のコントロール               | 1   | 1       | 対人恐怖症      | 1               |
| 非行・怠学                   | 5   |         | 摂食障害       | 4               |
| 落ち着きがない・易怒性             | 2   |         | その他        | 15              |
| 生活の乱れ                   | 2   |         |            |                 |
| 自分（の性格）について             | 7   |         |            |                 |
| ＜面接形態別＞                 |     |         |            |                 |
| 単独面接（本人）                | 2   | 7       | 父母子並行面接    | 7               |
| 親（母）面接                  | 2   | 8       | 母子並行面接     | 127             |
| 父子並行面接                  | 8   |         | その他        | 4               |
| ＜年齢区分別＞                 |     |         |            |                 |
| 幼 児                     | 4   |         | 高校生，16～20歳 | 22              |
| 小学生                     | 3   | 4       | 成 人        | 12              |
| 中学生                     | 2   | 2       | 親による子の相談   | 99              |
| ＜帰 結 別＞                 |     |         |            |                 |
| 終 結                     | 4   | 7       | 中 断        | 20              |
| 継続中                     | 1   | 13      | 経過観察       | 8               |
| ②対教師等相談                 |     |         |            |                 |
| 受付ケース数                  | 9   | 4       | 総面接回数      | 94回             |
| 前年度からの引継ぎ               | 2   |         | 総面接時間      | 101時間           |
| 新規受付                    | 9   | 2       |            |                 |
| ＜問 題 別＞                 |     |         |            |                 |
| 幼稚園・保育園学級運営             |     | ( )人    | ＜帰 結 別＞    |                 |
| 学級運営                    | 3   | 5 (30人) | 終 結        | 92              |
| スクールカウンセラーへのスーパービジョン    | 3   | 2 (21人) | 継続中        | 2               |
| 電話相談員へのスーパービジョン         | 6   | (5人)    |            |                 |
| 適応指導教室指導員へのスーパービジョン     | 1   | (1人)    |            |                 |
| 病院・クリニックのスタッフへのスーパービジョン | 1   | (1人)    |            |                 |
| その他                     | 2   | 6 (36人) |            |                 |

## 6. 地域・教育委員会等と連携した活動

センターでは、本年度に地域・教育委員会等と連携して、次の活動を行った。

### ①愛知県教育委員会派遣教員内地留学生4名の臨床教育（大学院レベルの受け入れ）

広中正臣 「学校不適應に対する行動論的取り組み」

荒木義哉 「生徒指導に関する研究」

— 予防開発的教育相談の導入を考える —

原る美 「教育相談における校内連携の一考察」

— 教育活動としての相談の定着をめざして —

草田真希子 「進学校におけるアスペルガー症候群やその疑いのある生徒の理解と支援」

— 特別支援教育を視野に入れて —

### ②県・各市教育委員会との連携

1) 豊田市「相談主任」研修会（講師：生島博之，参加者110名） 4月25日

2) 豊明市初任者研修（講師：生島博之，参加者16名） 8月6日

3) 猿投中学校ほか・校内研修会（講師：生島博之，参加者50名） 8月8日

4) 安城市教育センター・事例研究（講師：生島博之，参加者5名） 8月20日

5) 愛知県総合教育センター・学校教育相談上級講座（講師：生島博之，参加者40名） 8月29日

6) 西三北地区生徒指導研究会（講師：生島博之，参加者15名） 9月1日

7) 西三東地区教育相談研究会（講師：生島博之，参加者15名） 10月17日

8) 名古屋市立江西小学校・校内研修会（講師：生島博之，参加者10名） 11月28日

9) 日本教育会愛知県支部西三北地区女性部研究会（講師：生島博之，参加者25名） 12月13日

10) 東三河高等学校生徒指導研究会（講師：生島博之，参加者84名） 1月20日

### ③県・各市教育委員会のいじめ・不登校・問題行動対策委員会等への協力（愛知県，名古屋市，豊田市，安城市ほか）

### ④「学校教育支援データベース」による愛知県内小・中学校を主とする校内研修会講師，保護者会講師，児童・生徒向けの講師等の紹介（平成20年4月～平成21年3月の依頼件数20件）

### ⑤SOBAメンバーによるフリースクール「クツナ池の原センター」でのボランティア活動（8月）

### ⑥SOBAメンバーによる刈谷市教育委員会「キッズクラブ」（刈谷市北部生涯学習センター）の企画と実行（7月19日，12月20日）

### ⑦ひきこもり家族教室（西尾保健所）講演「ひきこもりの理解と対応」（10月15日）

### ⑧不登校学びネットワーク東海シンポジウム「不登校—どうすればいいの？子どもの学びと成長の視点から考える」コーディネーター（10月26日）

## 7. 教育実践総合センター刊行物

センターでは、本年度に次の刊行物を刊行した。

1) 『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第12号（平成21年2月）

2) 『SCOPE II』第12号（平成21年3月）

3) 『学校教育支援データベース—2009年度—』（平成21年3月）

4) 『教育臨床事例研究』第20号（平成20年10月）

5) 『教育臨床事例研究』第21号（平成21年3月）

6) 『教育臨床学研究』（愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室紀要）10号（平成21年3月）

7) 『SOBA活動報告書』第6号（平成21年3月）

## 8. その他の活動

その他，センターでは，本年度に次の活動を行った。

1) 「学校教育支援データベース」の作成とその活用（愛知県内小・中学校の教師，保護者，児童・生徒向けの支援の紹介）

2) 教科書データベースの管理

## 9. 事業日誌

4月12日 ケースカンファレンス（以降毎月2回の頻度で開催）

4月18日 愛知学校教育相談事例研究会（以降毎月1回開催，対象：教員等）  
 4月25日 愛知教育大学心理療法研究会（以降毎月1回開催，対象：OB臨床心理士ほか）  
 4月30日 第1回教育実践総合センター委員会  
 5月27日 第1回発達支援基礎研究分野研究会  
 6月21日～3月7日 公開講座「学校教育臨床―事例研究A―」（全9回，対象：教員・保育士等）  
 6月22日 公開講座「箱庭づくり体験」（対象：一般）  
 6月28日～3月21日 公開講座「学校教育臨床―事例研究B―」（全9回，対象：教員・保育士等）  
 7月19日 刈谷市キッズクラブへの参加（子どもとの交流プログラムを企画・実行）  
 8月 フリースタール「クツナ池の原センター」でのボランティア活動  
 8月6日 第1回教育臨床分野研究会（いじめ・不登校・学級崩壊等分科会を兼ねる）  
 8月28日～29日 公開講座「教育臨床セミナー」（対象：教員等）  
 10月 「教育臨床事例研究」第20号発行  
 11月2日 センター紀要編集委員会  
 11月29日 第2回発達支援基礎研究分野研究会（子育て・子育て研究会との共催）  
 12月20日 刈谷市キッズクラブへの参加（子どもとの交流プログラムを企画・実行）  
 1月9日～10日 愛知学校教育相談事例研究会宿泊研修（井ヶ谷荘）  
 2月 第2回教育実践総合センター委員会  
 2月18日 第1回教科教育分野研究会  
 2月中旬 「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」第12号発行  
 3月19日 平成20年度教育実践総合センター運営協議会  
 3月 「SCOPEⅡ」（教科教育研究分野ニュースレター）No.12発行  
 「学校教育支援データベース―2009年度―」発行  
 「教育臨床事例研究」第21号発行  
 「教育臨床学研究」（センター心理教育相談室紀要）第10号発行  
 「SOBA活動報告書」第6号発行